

2012.7 No. 22

佐賀大学病院ニュース

News & View

患者・医師に選ばれる病院を目指して



〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

地域総合診療センターの設置

地域医療は今、危機に瀕していると言っても過言ではありません。例えば救急搬送に関するたらい回しの報道を連日のように耳にする事態になっていきます。なぜこのようになつたのか、その大きな理由の一つに内科全般を専門にこだわらずに診療する、昔ながらの内科医が減っていることがあげられます。この事態の打開をはかるには、入院での診療を担う能力を持つ総合内科医を数多く輩出することが有効です。しかし、



特定機能病院であり、高度な専門医療を担う重責があります。総合内科の研修には必ずしも理想的とは言えません。そこで佐賀大学医学部附属病院は佐賀県及び佐賀市のご協力をいただき、佐賀市立富士大和温泉病院内に地域総合診療センター（略称・地域センター）を開設いたしました。佐賀大学医学部附属病院総合診療部ならびに同地域医療支援学講座・総合内科部門の若手医師2名が同センターに常勤医として勤務し、いわゆる一般内科の疾患の総合的な診療と研修を行っています。佐賀大学医学部附属病院から教授や講師クラスの医師が同センターを定期的な訪問し、回診やディスカッションを共に行います。また、大学病院と直結する電子カルテなどのIT関連のインフラも整備、大学と同等の研修環境を整備いたしました。地センターを開設する佐賀市立富士大和温泉病院は、長年にわたって地域に根差した診療を行ってきた内科各専科の専門家に加え、外科と整形外科も常勤する質の高い2次病院です。大学のようないわゆる高度医療機関ではか

認知症疾患医療センターの指定を受けました

急速な高齢化社会を迎えつつある日本では、65歳以上の老人の約10〜15%が老年期認知症であるとされています。統計では認知症患者は2012年には400万人に達すると報告されています。特にアルツハイマー病は、認知症疾患の三大原因の一つであり約50%を占め、現存病気のものを治す有効な治療法はなく、介護問題も含め社会的な問題となっています。佐賀県におきましても、高齢化とともに認知症患者が増加する一方、多くの認知症患者さんがどの医療機関を受診したら良いのか判断が難しくなっており、他の医療機関に通院中であっても認知症に関する相談に乗ってくれないことも少なからずあるのが現状です。平成23年12月1日付けで佐賀県認知症疾患医療センター運営事業が開始され、佐賀大学医学部附属病院が県の基幹センターとしての役割を担うことになりました。また3カ所の地域型センター（国立病院機構肥前精神医療センター、嬉野温泉病院、河畔病

地域総合診療センター長 山下 秀一



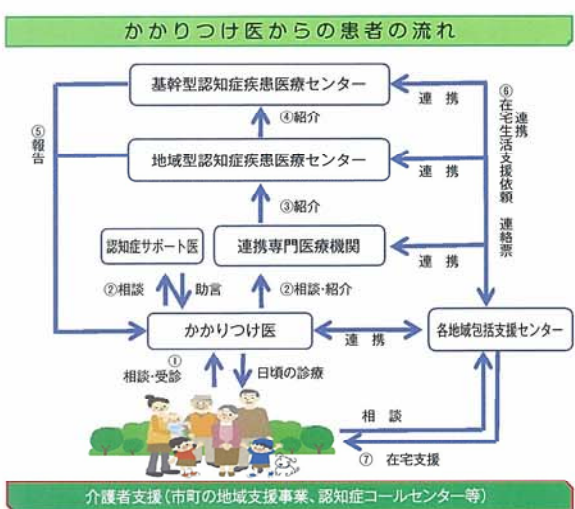
▲センター開所セレモニーでの写真
右から木須富士大和温泉病院長、秀島佐賀市長、宮崎病院長、山下センター長。

えって診られない肺炎や尿路感染といった、いわゆる一般内科の疾患を診療するには最適な環境にあるといえます。また、MRIなどの高度診断機器や人工透析なども整備され、重症患者管理を含めた高度医療にも対応できるポテンシャルを持っています。この地センターで数多くの総合内科医を育て、将来的には佐賀県全体に総合内科医が配置されることを計画しています。これが現在の危機に瀕している地域医療の再生の特効薬であると信じて努力する覚悟です。どうぞ皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

認知症疾患医療センター長(神経内科) 原 英夫



院)が設置されました。さらに認知症の周辺症状の治療を行う精神科医療機関(県内17医療機関)と連携体制をとっています。認知症疾患医療センター設置の目的は、認知症の早期の適切な診断、医療と介護の連携体制強化による認知症の患者さんとその家族の支援です。認知症の患者さんが住み慣れた地域で安心して暮らせることを目指します。認知症疾患医療センターでは認知症専門医、臨床心理士、精神保健福祉士等が次の業務を行います。認知症に関する専門医療相談(電話、面談、医療機関の紹介等)、認知症の鑑別診断とそれに基づく初期対応、周辺症状と身体合併症に対する急性期治療、かかりつけ医等への研修会、認知症疾患医療連携協議会、地域包括支援センターとの連絡・調整、情報発信などです。佐賀大学医学部附属病院では毎週月曜と水曜の午後に物忘れ外来を開設し、神経内科、精神科、認知神経心理学分野の共同で診療しております。



平成24年4月1日付で前任の阿部一之技師長の後任として就任しました廣木昭則です。皆様どうぞ、よろしくお願ひします。佐賀大学医学部附属病院(佐賀大学医学部附属病院の旧施設名)開院時から勤務し、現在に至っています。放射線治療部門、画像診断部門、医療情報部門の業務に携わりました。当院の病院理念は「患者・医師に選ばれる病院を目指して」であり、また病院目標は「地域医療への貢献、良き医療人の育成、高度医療技術の開発研究」です。常に医療を受ける患者さんの立場で考え、接遇、検査、治療等の診療業務を行える環境整備や人材育成を行いたいと思います。また、チーム医療推進に向けて放射線部内のスタッフが一人丸となって業務を遂行できるよう努力し、より安心・安全な医療を行うために、画像診断部門、放射線治療部門での業務改善と学術研究の更なる推進、さらに各部門のスペシャリストを育成し、病院運営に貢献したいと思ひます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



技師長 廣木 昭則

この度、平成24年4月1日付で、佐賀大学医学部附属病院検査部の技師長に就任いたしました東谷孝徳です。現在、臨床検査は一診療あたり7割に開発されている今日では、新発見、新検査法、新治療法が次々と開発されている今日では、今後一層その重要性は増すものと思われまふ。これらの変化に柔軟に対応することが求められる一方で、患者さんのための病院・検査部であること。この原点は変わりませぬ。不用意な言動や心無い態度は患者さんを傷つけ、ちよつとした気配りや心配いが不安や心配を解消し、勇気付けることもある接遇は極めて重要です。また、迅速で正確な検査結果の報告は検査部の永遠のテーマです。臨床データを最初に目にする検査部は、パニック値等の情報をいち早く臨床側に提供できる一方で、検体の取り違えやラベルの貼り間違いなどの事務的ミスは、臨床症状と合致しない検査結果に気付いた主治医からの情報により発見されます。病院として質の高い検査精度を保つためには臨床各科との緊密な連携が不可欠です。また、他の中央診療部門や事務部門との連携なくして患者さんの期待に応えることは困難です。一つの連携ミスが患者さんに不利益や不便さを与えることもあり、他部門との積極的な連携を図りたいと思ひます。これらのことを柱とし、常にコスト意識を持ち、業務の効率化や改善に向け努力することを忘れず、佐賀大学医学部附属病院の発展に少しでも貢献できるよう微力ではございますが頑張る所存ですので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



技師長 東谷 孝徳

就任挨拶

地域総合診療センターの設置

山下 秀一 認知症疾患医療センターの指定を受けました

原 英夫

就任挨拶

栄養管理部設置と食事の委託について

栄養管理部長
安西 慶三



4月より事務部門の患者サービス課に配置されていた栄養管理室が、病院内の一部門として独立しました。部長は肝臓・糖尿病・内分泌内科学教授安西慶三、副部長に牧山嘉見管理栄養士が就任しました。

現代社会では生活習慣病など過剰な栄養が問題視されていますが、ある調査で入院患者さんの4割が低栄養状態であったとする報告があります。不適切な栄養管理は、肺炎や褥瘡などを発症させ入院期間が長くなる原因となり薬の量も増え、医療費が増える原因にもなり、患者さんに心身や経済的負担をかけることもあります。当院の栄養管理部は適切な栄養管理を行うために、部内を2つの部門で組織しました。

1つは栄養マネジメント部門で、入院患者さんの栄養状態の変化にいち早く気づき、治療に必要な栄養補助食品や食事形態について医師や看護師に情報を提供する役目を病棟担当栄養士が行うようにしました。また食事に対する疑問や特別食の内容についての説明もすぐに行い、必要であれば個人栄養相談を受けられるような体制を整えたいと思っています。重篤になったとしても、栄養サポートチームの専従管理栄養士により栄養ケアが行われます。しかしながら退院後の栄養管理は、患者さんご自身で行っていくこととなります。皆様を取り巻く環境は様々であり、食事療養を継続させるのは難しいと思います。退院後の生活での不安を気軽に相談頂けるように、外来栄養相談も専任の担当者を1名配置しました。今後、栄養士会や近隣施設の栄養士と連携を強化して、入院から外来まで途絶えることのない栄養管理が行えるよう地域医療にも努力したいと考えています。

もう1つは給食マネジメント部門です。適切な栄養管理は、患者さんが食事を全部食べて頂いて初めて成り立つものです。そのためには、患者さんの



▲栄養管理部スタッフ

治療に対応した食事作りだけでなく、ご自分の悪い時にでも「一口食べてみようかな」と思える配慮を心がけた食事を提供したいと思っています。これに対応するために、給食業務の見直しを行い、7月より一般食は日清医療食品株式会社に委託し、クックチルを導入しました。これは作成した料理を急速にチルド（5℃以下）の状態にし、配膳前に再加熱し盛り付けて提供する方法です。これにより調理作業を短縮し、盛り付けを丁寧に行うことができ、さらに献立やメニューを充実させることもできます。また糖尿病のエネルギー制限食、腎臓病の低たんぱく食、様々なアレルギーなどのアレルギー除去食など特別調理を必要とする患者さんの食事作りにも力を注ぐことになりました。この他、チルドで保管することができますので、少ない塩分量で味を染み込ませることができ、減塩でありながら味わいのある食事の手助けにもなりますし、震災などの非常時の備蓄食としても使用することができます。

このように栄養管理部では、患者さんの栄養状態を適切に管理し、喜ばれる食事の提供を行うために、部内一丸となって頑張りたいと思っています。

親しまれる顔の見える外来へ

皆様、ご存じでしょうか？ 今年から、院内掲示に診療科長等の先生方が似顔絵で登場しています。佐賀大学医学部附属病院に初めて受診される患者さんにも親しみを込めて診察を受けて頂きたいと願っております。



(私は誰でしょう?)

診療科紹介

消化器内科

消化器内科では、主に消化管（食道、胃、小腸、大腸）と胆道、膵臓の疾患を取り扱っています。「お腹がいたい」「かぜは内科外来では最も多い疾患ですが、「お腹がいたい」の患者さんを診ていきます。

大学病院です。一般病院とは扱う疾患が少し異なりますが、佐賀大学医学部附属病院で特に多いのは救急患者さんです。吐血や下血を主訴とする消化管出血、急性膵炎、胆道系疾患等になります。これらの患者さんに対して24時間オンコール体制をとって対応しています。

緊急での止血処置等の対応ができることは消化器内科医として重要な要件です。小腸からの出血にはカプセル内視鏡等の特殊な小腸内視鏡検査をする必要がありすが、それらの装置は佐賀県内で唯一、当病院で完備しています。食道、胃、大腸の悪性疾患も多く、医

診療科長
藤本 一眞



療機関から紹介をいただき、早期の悪性疾患に関しては内視鏡的に切除しています。

大都市の病院ですと消化器内科医も細分化されている医局が多いのですが、当科では消化器の臓器にかかわらず、救急患者さんかどうかにかかわらず、全員が何でも対応できるようにしています。

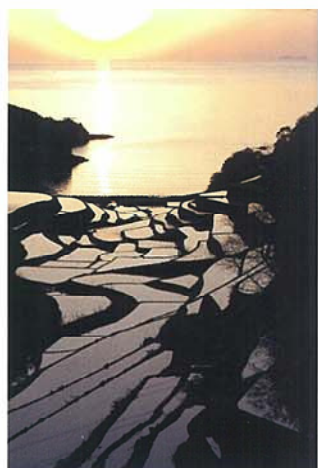
最近ではクローン病や潰瘍性大腸炎等の炎症性腸疾患の患者さんが増加しています。炎症性腸疾患の治療法はここ数年で飛躍的に進歩していますが、一般病院ではまだ対応できない治療法も多く、多くの患者さんが集まっています。

一般外来でよくみかける疾患から特殊な治療が必要な疾患まで様々な患者さんが来院されますが、今後でもできるだけ迅速にこれら多様な疾患に対応していきたいと思っています。

文化コーナー

第6回文化コーナーにもたくさんのご応募をいただき、誠にありがとうございました。今回掲載されている優秀作品に選ばれた方々には、賞品としてカップチーくんグッズ（マグカップもしくははくい飲み）を贈呈いたします。また、病院ホームページや外来ロビー等に全作品を掲示しておりますので、是非ご覧ください。

文化コーナー担当 南里悠介



▲「夕陽の鏡」小林由佳さん

俳句（社）日本伝統俳句協会会員「玉藻」同人

木下みね子・万沙羅（選）

- 紫陽花の 色あざやかに 雨にぬれ
 - 風受けて 立つ足もとの クローバー
 - 梅雨晴れた 心の中は 雨もよう
 - 川柳（佐賀大学医学部附属病院広報委員会 選）
 - 障がいを 敵対視せず 良い味方（見方）
 - 見えずとも 治療はゆつくり 進んでる
 - サガン鳥栖 観戦したいが 仕事の日
 - 愛犬の 身ぶるい動作 真似できぬ
- 匿名希望 江口八重子さん 久保加代子さん ナッチーさん ナッチーさん 久保加代子さん 坂本 晃さん

病院HP

病院再開発に関するお知らせ

現在、佐賀大学医学部附属病院は、病院再開発を進めております。皆様には、大変ご迷惑をおかけしておりますが、佐賀大学医学部附属病院ホームページでは、交通情報・再開発状況の情報を発信しておりますので、是非ご覧ください。



病院ホームページURL
<http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

病院再開発ホームページURL
<http://www.hospital.saga-med.ac.jp/newhosp/>